

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スケッチブック			
○保護者評価実施期間	令和8年1月20日		～	令和8年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数)	28
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		～	令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	聴覚障がい児・者に特化した事業所として、支援内容を検討し、実践している。	・手話や指文字など、口話以外の表出方法に関する定期的および継続的な研修の実施 ・助詞を意識づけさせるための資料提示や視覚的な手立てによる支援の実施	・障がい者支援の専門家による研修を定期的を実施し、利用児・者の「選択力」や「責任感」を育むような支援の実践を図る。
2	理学療法士や言語聴覚士等による、目標を明確にした集団および個別活動の実施	・発達段階に応じたことばの理解や語彙の増加、文章表現の向上を意識した活動の実施 ・聴覚障がい以外の特性や困り感に対応するための自己肯定感や自己調整能力などを高めるための活動の実施	・他の事業所や専門機関の事例に学びつつ、利用児・者一人ひとりにあわせた日常的な支援の実施を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・小学生から高校生まで幅広い年齢層のため、発達段階に応じた支援の徹底が十分でないこと	・限られたスペースやスタッフ数で支援を実施しているため。	・昨年度より徐々に実施している「アフタースクール」や「プログラミング教室」の充実を図り、幅広い年齢層に応じた支援を実践していく。
2	・他事業所に学ぶ機会が少ないため、新たな支援方法の構築が難しいこと	・聴覚障がい者に特化した事業所が他になく、情報交換が難しいため。	・実践報告会を実施したり、相談支援員から情報を得たりするなどして、他の実践に学ぶ機会を意図的に設ける。